

# 日本語歌謡曲のオノマトペに関する調査

井上 音々<sup>1</sup>, 望月 源<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 東京外国語大学 言語文化学部

<sup>2</sup> 東京外国語大学 総合国際学研究院

e-mail:motizuki@tufs.ac.jp

## 1 はじめに

日本語のオノマトペとは、動物の鳴き声や物の発する音などを表す「擬音語」と物の動きや様子、人の心情などを表現する「擬態語」を合わせたものである。日本語はオノマトペの豊富な言語と言われ、韓国語に次いで世界で2番目に擬音語・擬態語が多いとの指摘もある<sup>1</sup>。

オノマトペの調査研究では品詞性に焦点を当てたもの[1]や教科書での使用状況を調査したもの[2]など多数存在する。本研究が対象とする歌謡曲の歌詞においても、オノマトペは短い言葉で歌手の心情を的確に表す表現として多用されているものと予想できるが、歌詞を対象とした調査研究は多くない。

本調査は歌詞のオノマトペについて、まず、比較的最近の人気曲の中に出現するオノマトペの種類と使用頻度を調査する。次に、調査結果から出現曲数の多い2つのオノマトペに焦点を当て、各オノマトペと一緒に用いられる(共起する)傾向のある語の変化や、歌詞における2つのオノマトペの役割について調査する。

## 2 人気曲のオノマトペ

### 2.1 歌詞の収集

日本語人気曲のオノマトペ調査では、調査対象曲を Billboard JAPAN<sup>2</sup>が2008年から発表している年間チャートにランクインした曲とする。Billboard JAPANでは、現代の複雑な楽曲販売形態を反映するため、複数のデータを用いて複合的にチャートを決定している。具体的には2008年から2015年5月までは、「iTunes, レコチョクなどのダウンロード販売実績」、「実店舗とE コマースにおける全国推定売上枚数」、「全国主要

AM/FM32局のラジオ放送回数」、「PC等でCDを読み込んだ際に発生するアーティスト名」、「曲名データベース Gracenote データベースへの参照回数」、「楽曲とアーティスト名のツイート回数」の5種のデータ、2015年6月以降は、「YouTubeの動画再生回数」、「歌詞サービスプチリリの歌詞表示回数」を加えた7種のデータに基づく。

歌詞データの収集には、歌詞検索ソフトウェア Lyrics Master<sup>3</sup>を用いる。Lyrics Masterは、21の歌詞サイトを選択して検索できるが、本研究では、データ量が豊富な「うたまっぷ」「歌ネット」「歌詞GET」の主要3サイトを対象に歌詞を収集する。収集期間は2008年から2015年の8年分とする。

今回の歌詞データ収集では、各年の年間チャートが、2009年と2010年は各50位、それ以外の年は各100位までであるため、対象曲数は700曲となる。ただし、複数年にわたりチャート入りしている重複曲は1度だけ収集し、日本語でない曲は収集対象から除外する。こうして得られた歌詞データは全部で536曲となった。

### 2.2 オノマトペの抽出

対象とする536曲について、各曲中のオノマトペの有無と種類、出現回数を計算する。具体的には(1)各歌詞データを Mecab<sup>4</sup>により形態素解析し、(2)擬音語、擬態語辞典を参照し、出現したオノマトペの種類と出現数を記録する。なお、本研究では、どの語がオノマトペであるかの基準を3種類の擬音語、擬態語辞典[3][4][5]に取り上げられている語とする。また、ほぼ同じ表現が、ひらがな、カタカナ、促音を挟むもの、長音を挟むものなど異なる表記で現れる場合、ひらがなに統一する。例えば、「ドキドキ」「ドッキドキ」は

<sup>1</sup> <https://pj.ninjal.ac.jp/archives/Onomatope/index.html>

<sup>2</sup> <http://www.billboard-japan.com/>

<sup>3</sup> <http://www.kenichimaehashi.com/lyricsmaster/>

<sup>4</sup> <http://taku910.github.io/mecab/>

「どきどき」とし、「キラキラ」「きーらきら」は「きらきら」とする。また、同じ繰り返しが複数回ある場合も2回の繰り返しに統一する。例えば、「きらきらきら」は「きらきら」とする。

調査の結果、536曲中229曲(42.7%)に185種のオノマトペが含まれていた。各年ごとの収集曲数と邦楽数およびオノマトペを含む曲数を表1に示す。

表1 対象曲

|      | 収集  | 邦楽  | オノマトペを含む曲数 |
|------|-----|-----|------------|
| 2008 | 100 | 70  | 28         |
| 2009 | 50  | 39  | 17         |
| 2010 | 50  | 37  | 14         |
| 2011 | 100 | 76  | 36         |
| 2012 | 100 | 73  | 34         |
| 2013 | 100 | 76  | 32         |
| 2014 | 100 | 86  | 42         |
| 2015 | 100 | 79  | 26         |
| 合計   | 700 | 536 | 229        |

185種のうち、上位16種の種類と出現曲数、イメージおよび形態を表2に示す。

表2 人気曲のオノマトペ

| 順位 | オノマトペ | 曲数 | イメージ    | 形態   |
|----|-------|----|---------|------|
| 1  | そっ    | 47 | +       | Xt   |
| 2  | どきどき  | 17 | -       | XYXY |
| 3  | きらきら  | 15 | +++     | XYXY |
| 4  | ちゃんと  | 13 | +++     | XY   |
| 5  | わくわく  | 9  | +++     | XYXY |
| 6  | ぎりぎり  | 8  | --(-)   | XYXY |
| 7  | ぎゅっ   | 7  | 0/-     | Xt   |
| 8  | ふっ    | 7  | 0       | Xt   |
| 9  | きらり   | 6  | ++      | XYr  |
| 10 | きゅん   | 6  | +       | XY   |
| 11 | はっ    | 5  | 0/-     | Xt   |
| 12 | ちゅっ   | 4  | 0       | Xt   |
| 13 | はらはら  | 4  | ++/-    | XYXY |
| 14 | じっ    | 4  | 0       | Xt   |
| 15 | ほっ    | 4  | 0/++(+) | Xt   |
| 16 | ゆっくり  | 4  | 0/++    | XtYr |

今回の調査では、上位16種のすべてのオノマトペが「擬態語」だった。一般に、歌とは詞に心情をのせているものが多いことから、擬音語よりも様子や感情を象徴的に表す擬態語が多く使われたと思われる。

表2で「イメージ」とは、オノマトペのイメージの度合いをプラスからマイナスまで7段階で表したものである[3] (表3)。

表2の上位16種類のうち、8種類はプラスからややプラス寄りのイメージの語、4種類がマイナスからややマイナス寄りのイメージの語であり、曲数をベースにすると上位16種160曲中104曲がプラスのイメージ、30曲がマイナスのイメージで、プラスマイナス両方が4曲、イメージなしが22曲だった。プラスイメージのオノマトペがより多く使われていると言える。人々が辛い出来事を乗り越えるために、歌に気持ちを乗せることが、しばしば好んで用いられるため、歌詞中ではマイナスイメージよりも、プラスイメージのオノマトペが好んで使われているものと推測される。

表3 オノマトペのイメージ分類

| イメージの種類別        | 記号  |
|-----------------|-----|
| プラスイメージの語       | +++ |
| ややプラスイメージ       | ++  |
| ややプラス寄りのイメージの語  | +   |
| プラスマイナスのイメージはない | 0   |
| ややマイナス寄りのイメージの語 | -   |
| ややマイナスイメージの語    | --  |
| マイナスイメージの語      | --- |

また、表2の「形態」は、ある音を表す仮名の代わりにX,Yを用い、オノマトペに後接可能な促音が「ッ」の場合に「t」、「り」の場合に「r」で表されている。上位16種のオノマトペのうち、Xt型が7種で最も多かった。一般にオノマトペは副詞として用いられることが多く、「と」を伴うことで副詞化するXt型が多出していると思われる。次に多かったのがXYXY型で5種だった。XYXY型は2語の繰り返しで、リズム感もよく、メロディにのせるという観点でも歌に適しているため、歌詞中に多出したものと思われる。

本研究では、これらのオノマトペの形態のうち、XYXY型に着目し、出現曲数が多く、それぞれマイナ

スイメージ, プラスイメージを持つ「どきどき」と「きらきら」を対象にさらに詳細な調査を行う。

### 3 「どきどき」と「きらきら」

#### 3.1 調査の方法

「どきどき」と「きらきら」の個別調査では対象として、1966年から2016年までの約50年間での2つのオノマトペが出現する曲を収集する。次に、オノマトペごとに収集した曲をネット配信が本格化する前の2006年以前(A群)と2007年以降(B群)の2つの年代区分に分ける。続いて、各歌詞に出現する語の中で、A群、B群にそれぞれ偏って出現する語の存在を、 $\chi^2$ 分布に基づく独立性の検定によって調査する。すなわち、「どきどき」を含み年代の異なるA群、B群それぞれに偏って出現する語を調べることで、それぞれの年代区分において、一緒に用いられる傾向のある(共起する)語を調べる。同様に「きらきら」についても共起傾向のある語を調べる。

#### 3.2 歌詞の収集

「きらきら」と「どきどき」が出現する曲(歌詞)を収集するため、2節と同様のLyrics Masterに用意されている歌詞検索機能を用いる。この調査では、検索語として指定したオノマトペを含む曲を販売枚数に関係なく対象とし収集する。なお、2.2節と同様に文字種や促音、長音の挿入などの表記のゆれは「どきどき」「きらきら」に含むものとしてまとめて分析を行う。表4に収集した曲数を区分別に示す。

表4 「どきどき」「きらきら」の収録曲数

|             | どきどき | きらきら |
|-------------|------|------|
| (A) 2006年以前 | 111  | 126  |
| (B) 2007年以降 | 232  | 297  |
| 合計          | 343  | 423  |

#### 3.3 どきどきの共起語

「どきどき」を含む歌詞に出現する他の語についてA群とB群で出現の偏りに統計的有意差のあった語を表5に示す。なお、表5で「\*」は有意水準5%、「\*\*」は1%、「\*\*\*」は0.1%をそれぞれ示す。なお、A群B

群のどちらか片方にしか現れない語では $\chi^2$ 値を計算できない。そこで、表5の0内に主なものを示す。

表5 「どきどき」を含む歌詞で出現に偏りのある語

|   |
|---|
| A群(111曲)に偏って出現した語   |
| デート**, Ah*, ゲーム*, 秒*, sweet*, So*, 会話*, 風*, 心配*, 服*, とぶ*, 忘れる*, Uh**, 旅**, いろんな*, 映画*, やっと*, しよう*, がる**, 恋しい*, 青春*, 着る*, 場合*, パラダイス*, ウキウキ*, 砂浜*<br>(見れる, 唄う, しびれる, くどく, サヨナラ)                    |
| B群(232曲)に偏って出現した語   |
| ない*, !*, ?***, じゃ**, この**, だって**, より*, 先*, 未来*, なん*, から*, Let's*, いつ**, 言葉*, られる**, !!*, 想い**, その**, 光*, 前**, 伝える**, 触れる*, 変える*, どんな**<br>(懂れる, 次, だらけ, リアル, 始まり, どっち, ステージ, 綺麗, 眺める, モード, 特別, 唇) |

2006年以前のA群に偏って出現した語には、「デート」「恋しい」「会話」「心配」「青春」など、恋愛をテーマにした歌詞が想像できる語が多い。「ウキウキ」という別のオノマトペも見られた。一方、2007年以降のB群でも「想い」「伝える」という恋愛を想像させる語がみられた。また、B群では恋愛を想像させる語以上に、記号「!」「?」「!!」や指示詞「この」「その」や副詞「だって」「どんな」「より」など、名詞以外の語の増加が目立つ。近年では、歌詞の文体が以前より語り口調に変化していることをうかがわせる特徴が表れている。

#### 3.4 きらきらの共起語

「きらきら」を含む歌詞に出現する他の語についてA群とB群で出現の偏りに統計的有意差のあった語を表6に示す。なお、 $\chi^2$ 値を計算できないA群B群の片方にしか現れない語のうち、主なものを表6の0内に示す。

今回のデータでは「きらきら」の出現曲数は「どきどき」よりも多いが、A群B群のどちらかに偏った出現をする語の数は全体的に少なく、年代による偏りも少ない結果になった。ただし、「きらきら」から一般に連想される「星」「今夜」が最近の曲からは減ってい

るという結果が出た。また、「どきどき」と同様に、名詞以外の増加が目立ち、歌詞の文体が変化していることをうかがわせる特徴も見える。

表 6 「きらきら」を含む歌詞で出現に偏りのある語

|  |
|--|
| A群(126曲)に偏って出現した語  |
| 星*, 今夜*, かわいい*, づける*, 飲み込む*<br>(ともだち, 曲がる, あたり)  |
| B群(297曲)に偏って出現した語  |
| いる**, ない***, けど*, そう*, 全部*, なる**, っ<br>て***, できる*, きり*, 今*, より*, 信じる*, 何**<br>(触れる, メロディ, 向こう, 本当, 出逢う, 集める) |

### 3.5 「どきどき」と「きらきら」の比較

次に、「どきどき」の343曲をA群とし、「きらきら」の423曲をB群として、語の異なりを比較する。出現の偏りに統計的有意差のあった語を表7に示す。なお、 $\chi^2$ 値を計算できない「どきどき」「きらきら」の片方にしか現れない語のうち、主なものを表7の()内に示す。

表 7 「どきどき」「きらきら」で出現に偏りのある語

|  |
|--|
| A:どきどきを含む曲 (343曲) に偏って現れる語   |
| する***, れる**, 予定*, じゃ**, ?**, 恋***, 胸*, 鼓動*, 照れる*, これ*, せる*, 油断*, ピンチ**, 気持ち*, られる***, 一度*, YOU*, 単純*, 問題*, デート*, です*, 好き**, ちゃう***, 恋愛*, YEAH**, LOVE*, ハート***, バク*, 危険**, WAKU*, ちゃ***, らん*, こと*, じゃん*, I*, けど*, どう*, ヒント*, !!*, 味*, 止まる**, Kiss**, 合う**, 休み*, 言う*, たび*, 服* |
| (本音, ドライブ, 失恋, 触れ合う, Chance)   |
| B:きらきらを含む曲 (423曲) に偏って現れる語   |
| ユラユラ*, 揺れる*, 夏*, 笑顔*, 日*, たち***, 手*, 願い***, 叶う*, 光***, 輝く***, 涙*, 季節*, 夢**, 空***, 下*, 歩く*, 明日**, 色**, そっと*, 日々*, 風**, 眩しい*, 海**, 思い出*  |
| (ひかる, 水平, 暗闇, カケラ, 雫, 波間, 降り注ぐ)  |

全体的な印象として、「どきどき」は「デート」「好き」「恋」「胸」「鼓動」「LOVE」「ハート」「Kiss」の

ように恋愛関を想起させる語が非常に多く表れる。「どきどき」というオノマトペは、歌においては、恋愛をテーマとする歌詞と常に密接な関係があるといえ、ある程度の普遍性がうかがえる。

「きらきら」では、「光」「日」「空」「眩しい」といった光線がきらめく様や、「海」「涙」といった液体に光が反射して輝く様を形容したり描写するために利用される語が多い。また、「笑顔」「夏」「思い出」「季節」「夢」とった直接光を発するものでないが輝きを連想させるものとも「きらきら」が共起している。

これらの傾向は、どちらか片方にしか現れない語においても同じであり、歌詞においては「どきどき」は恋愛、「きらきら」は光り輝く様子を示すオノマトペとして使用されている。

## 4 おわりに

日本語人気曲の歌詞に表れるオノマトペを調査した。185種類の豊富なバリエーションがあったものの、繰り返し複数の曲に出現するオノマトペは、それほど多くなく、4回以上出現するものは16種類しかなかった。頻出するオノマトペは全て様子や感情を象徴的に表す擬態語として使われていた。頻出の「どきどき」と「きらきら」の個別の調査では「どきどき」は恋愛、「きらきら」は抽象物、具象物ともに、光り輝く様子を表す擬態語として使われていた。

今後、調査対象曲と語の種類を増やすことで、歌謡曲におけるオノマトペの使われ方、イメージをさらに明確化できると思われる。

## 参考文献

- [1] 宮内佐夜香ほか (2011) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に基づくオノマトペの分析—一品詞性の検討を中心に—言語処理学会第17回発表論文集 pp.651-654
- [2] 岡谷英夫 (2015) 「小学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」『人工知能学会論文誌』30巻1号, pp.257-264
- [3] 飛田良文, 浅田秀子 (2002) 『現代擬音語・擬態語用法辞典』東京堂出版
- [4] 浅野鶴子 編, 金田一春彦 解説 (1978) 『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- [5] 天沼寧 編 (1985) 『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版